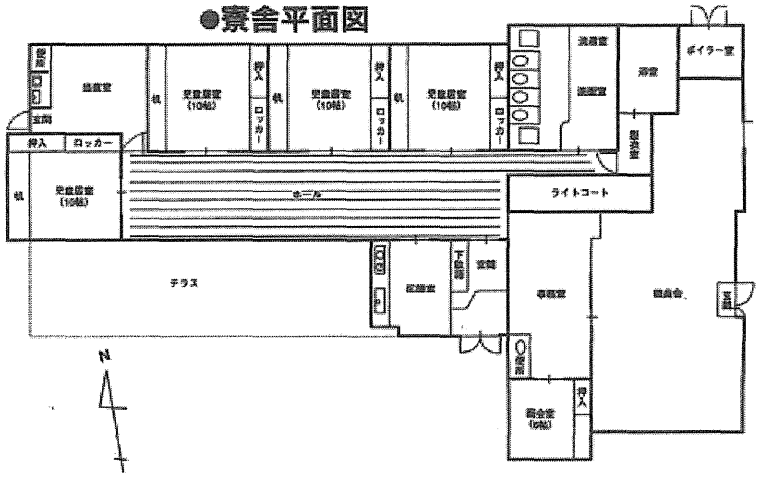
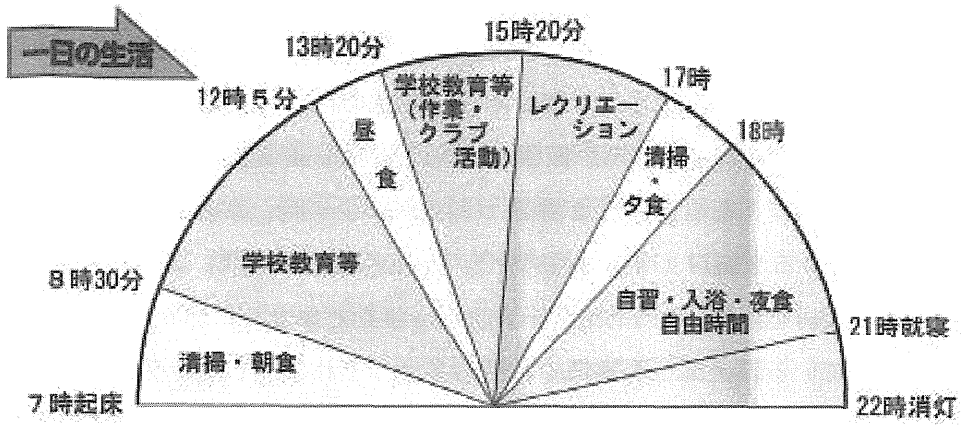
図２：きぬ川学院寮舎平面図

敷地	76,757㎡(約23,000坪)		
建物	10,568㎡		
本館	804㎡	車庫	203㎡
研修棟	632㎡	給食棟	832㎡
寮舎(6棟)	2,426㎡	体育館	892㎡
自立寮	960㎡	講堂	318㎡
学習棟	633㎡	職員宿舎(4棟)	1,015㎡
学齢児校舎	891㎡	その他	782㎡
治療棟	180㎡		



児童の居住スペースと職員の家族の居住スペースが事務室を挟んで一つ屋根の下にある。
また、できるだけ死角がないように設計されている。

図３：日課表



基本的にルーチンな生活を送っている
一年以上の間ほとんど施設内で過ごす非行少年のガス抜きのため、行事は多い。

Ⅱ-vii）病院以外での子どもの心の診療

３）医療少年院

施設・施設業務の要約

少年院とは、家庭裁判所における審判において保護処分を受けた少年を主として収容し、矯正教育を行う法務省所管の施設である（少年法、少年院法）。全国に 53 施設（分院 1 施設を含む）が存在している。少年院と少年院における処遇においては「保護と教育」がキーワードであり、少年院は教育施設であることを認識していただきたい。従って少年院において処遇を主に担当するのは法務教官である。これらの点が刑罰を科することを目的とした刑務所（処遇を主に担当するのは刑務官である）とはまず性質を異にしている。

非行少年の司法手続きを概説する。本邦の場合、全件送致主義をとっているため、嫌疑の認められる非行少年(14 歳以上なら犯罪少年、14 歳未満なら触法少年と呼ばれる)や触法行為に発展する可能性の有るぐ犯少年は基本的にほぼ全員が家庭裁判所に送致される。家庭裁判所は審判に必要と認めた場合、観護措置をとり少年を少年鑑別所に送致する。少年鑑別所においては心理技官や医師が少年の資質や背景を調査し、その結果と今後の処遇に対する意見を家庭裁判所に提出する。その結果も参考にして家庭裁判所が審判を行い、少年院送致等の処分を決定する。重大犯罪などでは検察官送致(いわゆる逆送)となり、成人と同様の刑事処分が下される場合もある。一般事件やぐ犯にて審判される少年の内、少年院送致となるのは約４％程度であり、９０％以上は社会内処遇が選択される。

少年院は被収容少年の年齢や非行傾向、心身の状態によって区分されるほか、家庭裁判所や少年鑑別所が勧告・決定する処遇区分(収容期間による区分)や処遇課程(少年院で主に何を中心に処遇・教育をするかという区分)によって区分される。収容される少年の最低年齢は平成 19 年の少年法の改正によって「14 歳」から「おおむね 12 歳」に引き下げられた。過去数回に渡って少年法は改正されてきたが、世間の耳目を集める少年事件が起こると世論の高まりが起こり厳罰化が徐々に進んできている。少年法の在り方については議論が続いており、今後も注目していくべきである。医療少年院は全国に 4 施設存在しており、処遇課程の内で「医療措置課程」を担当する 2 施設（関東医療少年院、京都医療少年院）と「特殊教育課程」を担当する 2 施設（神奈川医療少年院、京都医療少年院）に区分される。医療措置課程は心身に疾病を抱え、専門的治療を要する少年を対象としており、2 施設は医療法上の病院ともなっている。医師や看護師の定員も多い。それに対して特殊教育課程は知的障害や情緒的未成熟によって社会不適応が著しい少年を対象としており、知的障害や自閉症スペクトラム障害などを抱えた少年が多く、いわば少年院における特別支援学校的な役割を担っている。2 施設は医療法上の病院ではなく、付属して診療所を持っている形態となっており、医師や看護師数も少ない。しかし、どちらの処遇であっても医療少年院は

専門的医療と矯正教育の両方を並行して行う機関であり、少年個々のニーズに応じて立案された個別的処遇計画に従って、医療部門と教育部門が緊密に連携して治療と教育を行っている。

少年院送致においては懲役刑における刑期のようなものが存在しないため、少年達は一人一人に立てられた目標に向かって努力・前進すれば、新入時教育→中間期教育→出院準備教育と進級していき、仮退院となる。仮退院後はほとんどのケースで保護観察がつき、社会復帰にあたっては保護観察所(保護観察官、保護司)が少年を処遇していくこととなる。

施設で行われる基本的治療技法

①認知行動療法　②薬物療法　③作業療法　④その他の心理療法

施設・施設業務理解へのチェックリスト

□ 少年法の趣旨や概要を理解できる

□ 非行少年の司法手続きを理解できる

□ 少年院と刑務所の違いについて理解できる

□ 本人や関係者に対して、適切な相談機関(警察の青少年センター、少年鑑別所等)を紹介できる

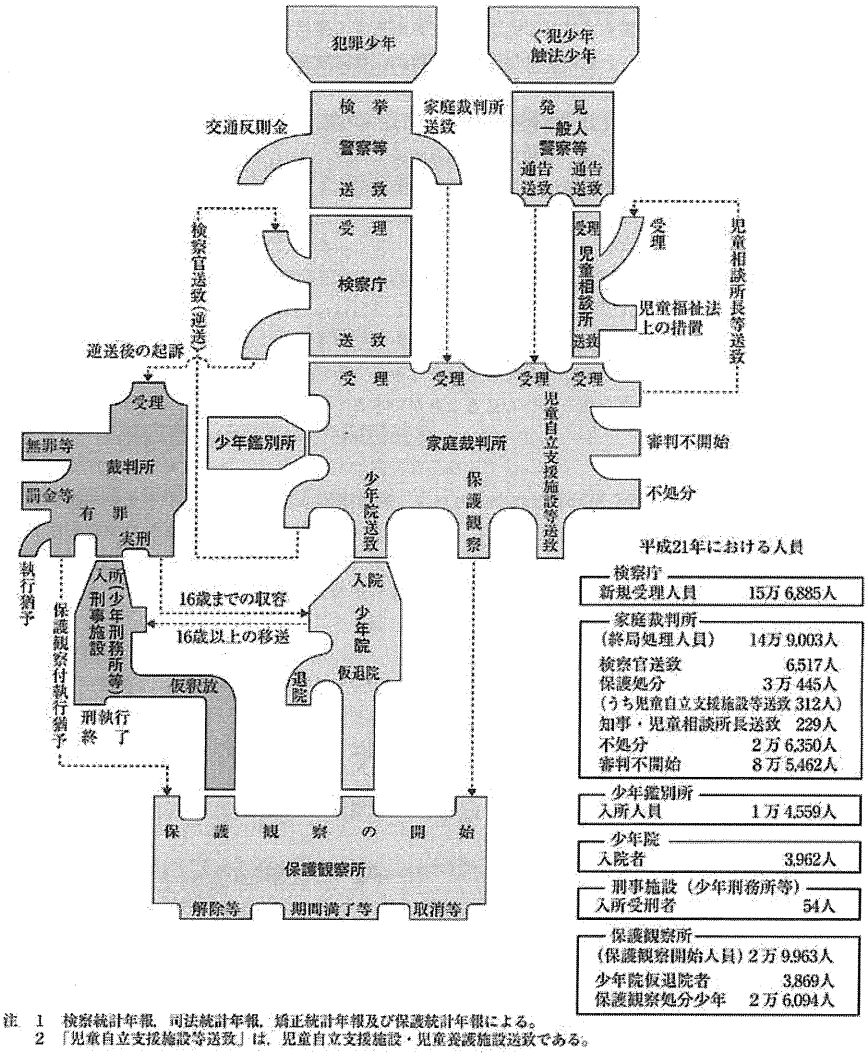
□ 非行少年について必要に応じて、児童相談所や警察に通告・相談ができる

□ 少年院内における処遇の流れを理解できる

□ 少年院から仮退院してきた少年について、保護観察所や児童相談所と連携しながら診療を行える

施設・施設業務理解のための自由ノート

☆　非行少年の司法手続き　（平成 22 年版犯罪白書）



注　1　検察統計年報，司法統計年報，矯正統計年報及び保護統計年報による。
　　2　「児童自立支援施設等送致」は，児童自立支援施設・児童養護施設送致である。

推薦図書

1.　法務省法務総合研究所　（2010）　：平成 22 年版犯罪白書

2.　奥村雄介、野村俊明　（2006）　：　非行精神医学.　医学書院

Ⅱ-vii）病院以外での子どもの心の診療

4）情緒障害児短期治療施設

施設・施設業務の要約

1961年（昭和36年）児童福祉法(※1)に「情緒障害児短期治療施設」（以下“情短”）が盛り込まれ成立した。当時は年少児の非行への対策と考えられていた。児童福祉法の「軽度の情緒障害」とは精神疾患名ではなく、法的な援助概念ととらえ、養育状況から生じた不適応状態とし、生下時にあったと考えられる疾患群と区別している。

他の社会的養護の児童福祉施設と異なって、治療を目的に医師が常勤でいることやおおむね12歳未満(※2)を対象にしていたこと、短期間（3～6ヶ月）の入所などが求められていた。対象となった児童はその後、不登校から被虐待、最近では軽度発達障害へと変化（※3）がみられるなど、「軽度の情緒障害」の枠にとどまらなくなっており、その時代の対応の難しい子どもたちへと推移している。特に児童虐待の増加とともに、その治療的施設として厚労省の積極的な啓発（※4）もあり、2000年(平成12年)以降各自治体において設置が進められ、2011年現在37施設に増加している。

情短の特徴は「総合環境療法」といわれ、生活指導と心理および医学的治療と学校教育がそれぞれの専門性を活かし、協働し、子どもたちの治療目標を達成していこうとしている点である。とりわけ子どもたちの発達や課題を踏まえた見立てに応じた生活環境を整え、育ち直りを支えていくことが情短の基本的あり方と考える。治療は子どもにとどまらず、家族療法を早期から取り組み家族支援を行っている。それらの特徴的な機能は、児童福祉法の改正とともに、心理職やファミリーソーシャルワーカーの採用など他の児童福祉施設へも拡大している。それらは社会的養護を担う児童福祉施設に入所している子どもやその家族の課題が、情短と大きく変わらないという現状を踏まえてのことである。

2000年前後より情短では被虐待児童や軽度発達障害児童の増加による治療の困難さや問題となる行動の激しさ、また家族支援の難しさなどによって職員が疲弊し、施設崩壊の危機と向き合っていた。30年以上変わっていない最低基準（職員と子供の比率）（※5）が大きな課題となっている。

今後の情短のあり方を検討している中では、最低基準の改善や治療機能を活かした社会的養護施設横断的なサービス提供（※6）などが課題として挙げられている。さらに情短における常勤医師の減少が懸念されていることへは、施設に診療所機能が併設されることや医師の給与の改正などがその増加への足がかりになると考えられる。

施設・施設業務理解へのチェックリスト

□ 社会的養護施設と家庭的養護施設について知っている

□ 児童相談所の機能について理解している

□ 児童虐待について理解している

□ 虐待によって受ける子どもの心身への影響について理解している

□ 虐待を受けた子どもへの治療的関わりの困難さを理解している

□ 情短の「総合環境療法」について理解している

□ 多職種職員間のチームワークの重要性について理解している

□ 情短の医師の役割について理解している

□ 家族支援(家族療法)の重要性について理解している

□ 施設内虐待が起こる背景やその防止について理解している

□ 退園に向けた流れとアフターケアの必要性について理解している

□ 通所治療にPDDの子どもが多いことを知っている

施設・施設業務理解のための自由ノート

情緒障害児短期治療施設　(補足説明)

※1 児童福祉法43条の5

「軽度の情緒障害を有する児童を、短期間、入所させ、又は保護者の下から通わせて、その情緒障害を治し、あわせて退所したものについて相談その他の援助を行うことを目的とする施設。」

※2 年齢制限

現在は、撤廃されている。

※3 入所児童の変化

初期は、小学生の非行、昭和60年代には、不登校児童が中心であった。
現在では、被虐待児童が70%を超え、軽度発達障害児童が40%になっている。

※4 厚労省の啓発

「健やか親子21」で、2010年までに各自治体に一つ以上の情短を設置するという目標を掲げた。
しかし、実際には実現していない。

※5 最低基準

入所児童5人に1人の児童指導員・10人に1人の心理職員。(設備面は省略)

※6 社会的養護施設横断的なサービス提供

他の児童福祉施設入所児童の情短への通所治療は、二重措置の観点から行われていない。

[参考資料]

①施設数と入・通所児童数　　(平成21年のデータ)

平成	施設数	入所児童数	通所児童数
13年	19	635	87
14年	21	697	108
15年	25	720	111
16年	25	801	113
17年	27	899	135
18年	31	997	139
19年	31	1041	135
20年	32	1060	125
21年	33	1102	130

②被虐待児童の割合

平成	割合(%)
8年	35.4
9年	38.8
10年	44.3
11年	48.4
12年	53.4
13年	58.7
14年	64.3
15年	66.0
16年	69.8
17年	68.0
18年	68.3
19年	72.0
20年	74.2
21年	72.5

③ICD-10による疾患別割合

疾患名	ICD－10	入所児童(%)	通所児童(%)
広汎性発達障害	F84	19.5	40.0
多動性障害	F90	13.2	15.4
行為障害	H91	14.3	10.8
情緒障害(分離不安など)	F93	7.5	13.6
社会的機能の障害	F94	26.8	19.2

④平均入所期間

28.1ヶ月(漸増)　　3年以上の施設　9施設
　　1年半未満の施設　2施設

⑤退所先が自宅である割合

68.4%
　被虐待児童　62.3%
　非被虐待児童　87.6%

⑥精神科医療を受けている児童

	精神科受診	薬物療法
入所児童	39.7%	31.9%
通所児童	32.3%	29.3%

⑦施設内診療

11施設で行っている
　うち7施設に診療所がある

Ⅴ．　研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ペ-ジ
齊藤万比古,	外来受診状況での見立ての実際	臨床心理士子育て支援合同委員会（編	臨床心理士のための子育て支援基礎講座	創元社	大阪	2010	107-120
齊藤万比古,	Ⅰ ライフステージから見た注意すべき症状とこころの病気 2 小学校・中学校期	樋口輝彦，野村総一郎（編）	こころの科学 こころの医学事典	日本評論社	東京	2010	46-74
齊藤万比古,	不登校	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア 4. 子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	420-427
齊藤万比古, 宮崎央桂	思春期・青年期の特徴・症状	小野次朗, 小枝達也（編）	ＡＤＨＤの理解と援助	ミネルヴァ書房	京都	2011	57-62
齊藤万比古	ＡＤＨＤ治療教育の今後の展望	小野次朗, 小枝達也（編）	ＡＤＨＤの理解と援助	ミネルヴァ書房	京都	2011	211-215
齊藤万比古（編著）		齊藤万比古総編集	子どもの心の診療シリーズ6 子どもの人格発達の障害	中山書店	東京	2011	
齊藤万比古（編著）	発達障害が引き起こす二次障害とは何か	齊藤万比古（編著）	発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート	学研教育出版	東京	2011	2-75
齊藤万比古,		齊藤万比古，生地新（総監訳）	児童青年精神医学大事典	西村書店	東京	2012	
齊藤万比古（編著）		齊藤万比古（編著）	ひきこもりに出会ったら―心の医療と支援―	中外医学社	東京	2012	
齊藤万比古（編著）		齊藤万比古，金生由起子（編）	子どもの強迫性障害 診断・治療ガイドライン	星和書店	東京	2012	
齊藤万比古	子どもの精神障害の原因	山崎晃資，牛島定信，栗田広，青木省三（編）	現代児童青年精神医学 改訂第2版	永井書店	大阪	2012	45-59
飯田順三	広汎性発達障害と統合失調症	市川宏伸編	専門医のための精神科臨床リュミエール19広汎性発達障害－自閉症へのアプローチ	中山書店	東京	2010	76-81
飯田順三	ADHDと不安障害	松本英夫、傳田健三編	子どもの心の診療シリーズ４ 子どもの不安障害と抑うつ	中山書店	東京	2010	108-115
飯田順三	母子関係からみた心の発達	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア 4. 子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	15-23
飯田順三	統合失調症	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア4 巻　子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	523-531
飯田順三	ADHDの薬物療法	松下正明総編集	ADHDの薬物療法．精神医学キーワード事典	中山書店	東京	2011	644-646
飯田順三	発達障害児の人格発達の可能性と限界	齊藤万比古総編集	子どもの心の診療シリーズ６子どもの人格発達の障害	中山書店	東京	2011	115-134
太田豊作、飯田順三	薬物療法	青木省三編集	専門医のための精神科臨床リュミエール23成人期の広汎性発達障害	中山書店	東京	2011	243-251
飯田順三	親への助言で心がけること	青木省三，村上伸治（編）	専門医から学ぶ児童・青年期患者の診方と対応	医学書院	東京	2012	212-217
飯田順三	（訳・監訳）：第I部 幼児期から青年期における発達，第V部 注意欠如多動性障害と破壊的行動障害，第VI部 不安障害	JM. Wienner & MK. Dulcan（編），齊藤万比古, 生地新（総監訳）	児童青年精神医学大事典	西村書店	東京	2012	11-24, 363-446
飯田順三	解離性障害	山崎晃資，牛島定信，栗田広，青木省三（編）	現代児童青年精神医学 改訂第2版	永井書店	大阪	2012	370-376
岸本年史 飯田順三	精神の発達とライフサイクル	加藤進昌，神庭重信，笠井清登（編）	TEXT精神医学 改訂４版	南山堂	東京	2012	63-74
太田豊作、飯田順三	注意欠如・多動性障害	齊藤万比古，金生由紀子（編）	子どもの強迫性障害 診断・治療ガイドライン	星和書店	東京	2012	114-118
太田豊作、飯田順三	診断面接の進め方	神尾陽子（編）	成人期の自閉症スペクトラム診療実践マニュアル	医学書院	東京	2012	31-37

金生由紀子	チック・Tourette症候群	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア4巻　子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	323-334
金生由紀子	Gilles de la Tourette症候群をめぐる最近の話題	鈴木則宏/祖父江元/荒木信夫/宇川義一/川原信隆(編)	Annual Review神経2011	中外医学社	東京	2010	268-277
金生由紀子	チック症候群	笠井清登, 村井俊哉三村将, 岡本泰昌，大島紀人（編）	精神科研修ノート	診断と治療社	東京	2011.6	463-465
金生由紀子	トゥレット障害の強迫性	松下正明総編集	精神医学キーワード事典	中山書店	東京	2011.7	41-43
金生由紀子	2.子どもの強迫性の展開と人格形成	齊藤万比古総編集	子どもの心の診療シリーズ６ 子どもの人格発達障害	中山書店	東京	2011.9	152-169
亀岡智美	摂食障害	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア4巻　子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	487-496
亀岡智美	人格発達の阻害要因としての虐待	齊藤万比古，笠原麻里編	子どもの人格発達の障害	中山書店	東京	2011	53-66
亀岡智美	子どものPTSDと薬物療法	藤森和美・前田正治編	大災害と子どものストレス	誠信書房	東京	2011	50-52
亀岡智美	子どものPTSDの治療	飛鳥井望編	新しい診断と治療のABC70(最新医学別冊）心的外傷後ストレス障害（PTSD）	最新医学社		2011	200-207
亀岡智美	急性ストレス障害（ASD）	山崎晃資，牛島定信，栗田広，青木省三（編）	現代児童青年精神医学（改訂第2版）	永井書店	東京	2012	339-344
渡部京太	注意欠如・多動性障害（ADHD）と抑うつ	松本英夫、傳田健三編	子どもの心の診療シリーズ４ 子どもの不安障害と抑うつ	中山書店	東京	2010	189-199
渡部京太	子どもの状態を把握する評価尺度	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア4巻　子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	70-79
渡部京太	虐待	監修清水將之、編集高宮静男　渡邉直樹	青年期精神医学－内科医、小児科医、若手精神科医のための	診断と治療社	東京	2010	136-143
渡部京太	乱暴な子どもをどう診るか	青木省三、村上伸治（編集）	専門医から学ぶ 児童・青年期患者の診方と対応 (精神科臨床エキスパート)	医学書院	東京	2012	139-150
青木桃子 渡部京太	子どものひきこもり（不登校）の精神医学的診断・評価	齊藤万比古（編著）	ひきこもりに出会ったら-こころの医療と支援-	中外医学社	東京	2012	39-57
渡部京太	乳幼児における臨床的なアセスメント	ウィーナー・ダルカン編著、齊藤万比古、生地新総監訳	児童青年精神医学大事典	西村書店	東京	2012	71-83
渡部京太 森岡由紀子	集団療法	山崎晃資、牛島定信、栗田広、青木省三（編著）	現代児童青年精神医学（改訂第２版）	永井書店	大阪	2012	597-602
桝屋二郎	抑うつ，リストカット,選択的セロトニン再取り込み阻害薬,セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬,電気けいれん療法	日本ストレス学会　監修	ストレス科学辞典	実務教育出版	東京	2011	639 647 739 1011 1028
桝屋二郎	抗精神病薬とストレス	ストレス百科事典翻訳刊行委員会　編集	ストレス百科事典	丸善	東京	2010	226-231
桝屋二郎	外在化障害の展開と人格発達	齊藤万比古，笠原麻里編	子どもの心の診療シリーズ６ 子どもの人格発達障害	中山書店	東京	2011	216-240
桝屋二郎	少年の性加害修正プログラム	松下正明総編集	精神医学キーワード事典	中山書店	東京	2011	743-744
岡田俊	広汎性発達障害	高宮静男、渡邉直樹編集	青年期精神医学－内科医、小児科医、若手精神科医のための	診断と治療社	東京	2010	40-46
岡田俊	薬物療法	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア4巻　子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	164-172

岡田俊	青年期の不安障害の生物学的知見	松本英夫、傳田健三編	子どもの心の診療シリーズ４ 子どもの不安障害と抑うつ	中山書店	東京	2010	116-123
岡田俊	注意欠如・多動性障害，自閉症	山脇良平（編）	各疾患領域の治療の現状とメディカルニーズDATA BOOK	技術情報協会	東京	2010	374-381
岡田俊	広汎性発達障害における薬物療法	市川宏伸編	専門医のための精神科臨床リュミエール19広汎性発達障害ー自閉症へのアプローチ	中山書店	東京	2010	156-165
岡田俊	薬物療法	加藤進昌，神庭重信，笠井清登（編）	TEXT精神医学 改訂４版	南山堂	東京	2012	654-663
岡田俊	小児の精神障害	村井俊哉、野間俊一、深尾憲二朗（編	精神医学へのいざない	先端医学社	東京	2012	320-344
岡田俊	小児精神医学の臨床ー発達障害を中心に	樋口輝彦、市川宏伸、神庭重信、朝田高、中込和幸（編）	今日の精神疾患治療指針	医学書院	東京	2012	13-42
岡田俊	パーソナリティ障害と広汎性発達障害	大関武彦、古川漸、高田俊一郎、水口雅（総編集）	今日の小児治療指針第15版	医学書院	東京	2012	221-223
山崎透(著)	児童精神科の入院治療 ～抱えること、育てること～		児童精神科の入院治療 ～抱えること、育てること～	金剛出版	東京	2010	
山崎透	入院治療	飯田順三（編）	脳とこころのプライマリケア4巻　子どもの発達と行動	シナジー	東京	2010	172ー182

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
齊藤万比古	特集ADHDをめぐって　現状と課題	児童青年精神医学とその近接領域	51(2)	67-76	2010
牛島洋景，齊藤万比古	注意欠如多動性障害における衝動性と薬物療法	臨床精神薬理	13(6)	1133-1141	2010
齊藤万比古，青木桃子	ADHDの二次障害	精神科治療学	25(6)	787-792	2010
齊藤万比古，永田真由	ADHD治療のアルゴリズム	精神科治療学	25(7)	867-873	2010
齊藤万比古	ADHDと二次障害をどう理解するか	臨床心理学	増刊号2	43-48	2010
齊藤万比古	不登校からひきこもりへ―支援のネットワークの意義を求めて―	日本福祉大学心理臨床研究センター紀要	5	3-9	2010
永田真由，齊藤万比古	思春期の子どもを持つ家族への助言	小児内科	43(5)	935-938	2011
齊藤万比古	不登校・ひきこもりから見る現代のアドレッセンス	精神科治療学	26(6)	727-733	2011
Usami M, Oiji A, Saito K, Watanabe K, Iwadare Y, Kodaira M, and Kamei Y	Sleep problems among junior high school students with major depressive disorder	Kitazato Med Journal	42	91-97	2012
Ushijima H, Usami M, Saito K, Kodaira M, Ikeda M	Time course of the development of depressive mood and oppositional defiant behavior among boys with attention deficit hyperactivity disorder : Differences between subtypes.	Psychiatry and Clinical Neurosciences	66	285-291	2012
Kodaira M, Iwadare Y, Ushijima H, Oiji A, Kato M, Sigiyama N, Sasayama D, Usami M,Watanabe K, and Saito K	Poor Performance on the Iowa gambling task in children with obsessive-compulsive disorder	Annals of General Psychiatry	2012	285-291	2012
齊藤万比古	特集「精神科医からみた子どもの精神疾患」不登校への対応	小児科	53(5)	589-595	2012
齊藤万比古，飯島崇乃子	特集「クローズアップ発達障害」治療のアプローチ―流れと考え方	小児科内科	44(5)	735-738	2012
齊藤万比古	青年期におけるメンタルヘルスへの取り組み　第12回「青年期のメンタルヘルス」	保健の科学	54(7)	479-483	2012
齊藤万比古	第52回日本児童青年精神医学会教育講演 子どものパーソナリティ発達の障害	児童青年精神医学とその近接領域	53(4)	409-421	2012
齊藤万比古	子どもの心の臨床，過去，現在，そしてこれから	小児の精神と神経	52(4)	293-303	2012
齊藤万比古	子どもの精神療法におけるCBTの位置づけ	子どものこころと脳の発達	3(2)	96-102	2012
齊藤万比古	おとなのADHD臨床 I おとなのADHDの診断	精神科治療学	28(2)	139-145	2013
Hideki Negoro Masayuki Sawada Junzo Iida Toyosaku Ota Shohei Tanaka Toshifumi Kishimoto	Prefrontal Dysfunction in Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder as Measured by Near-Infrared Spectroscopy	Child Psychiatry Human Development	41	193-203	2010
澤田将幸　木村豪　太田豊作　岸本直子　池下克美　法山良信　定松美幸　飯田順三　岸本年史	措置入院を契機に診断および告知に至った強迫性障害を伴うアスペルガー症候群の成人例	臨床精神医学	39 (9)	1179-1185	2010
Masayuki Sawada Junzo Iida Toyosaku Ota Hideki Negoro Shohei Tanaka Miyuki Sadamatsu Toshifumi Kishimoto	Effects of osmotic-release methylphenidate in attention-deficit/hyperactivity disorder as measured by event-related potentials	Psychiatry and Clinical Neurosciences	64	491-498	2010
太田豊作、飯田順三	併存障害を伴うADHDへのストラテラの使用経験	現代のエスプリ	513(4)	182-191	2010
飯田順三	精神科後期研修で何を学ぶか？	児童思春期精神医学精神科	16(4)	311-314	2010
澤田将幸　飯田順三	Methylphenidate乱用	Schizophrenia Frontier	11(2)	34-38	2010
相原加苗　城島哲子　飯田順三　岸本年史	虐待の実態と評価	精神科	17(1)	24-29	2010
根來秀樹　飯田順三　澤田将幸　太田豊作岸本年史	発達障害の精神生理から何がどこまでわかるか？	日本生物学的精神医学会誌	21(2)	77-81	2010
太田豊作　飯田順三	子どもの発達障害とその周辺の問題	小児科臨床	64(5)	881-887	2011
飯田順三　太田豊作	統合失調症と広汎性発達障害の鑑別および併存について	精神科診断学	4(1)	91-96	2011

澤田将幸　飯田順三　根來秀樹 太田豊作　岸本年史	発達障害の事象関連電位とNIRS	児童青年精神医学とその近接領域	52(4)	417-420	2011
太田豊作　飯田順三　岸本年史	成人の広汎性発達障害における補助診断ツールの意義	精神神経学雑誌	113(11)	1137-1144	2011
Ota T, Iida J, Sawada M, Suehiro Y, Kishimoto N, Tanaka S, Nagauchi K, Nakanishi Y, Yamamuro K, Negoro H, Iwasaka H, Sadamatsu M, Kishimoto T	Comparison of pervasive developmental disorder and schizophrenia by the Japanese version of the National Adult Reading Test	International Journal of Psychiatry in Clinical Practice			2012
太田豊作, 飯田順三	私の発達障害臨床における家族面接	精神科	21(3)	331-334	2012
太田豊作, 飯田順三	大人の発達障害 併存障害への対症療法、発達障害でない患者との相違点	治療	94(8)	1398-1402	2012
岸本直子，根來秀樹，澤田将幸，紀本創兵，太田豊作，定松美幸，飯田順三，岸本年史	アスペルガー症候群の青年の自己意識－文章完成法を中心に－	青年心理学研究	24(1)	5-14	2012
金生由紀子	トゥレット障害	日本小児科学会雑誌	114(11)	1673-1680	2010
金生由紀子	子どものチックとこだわり	小児科	52(4)	477-485	2011
金生由紀子	精神疾患の診断と治療Update 3.強迫性障害	小児科臨床	64(5)	21-28	2011
金生由紀子	強迫症状・こだわり（強迫性障害）	精神科臨床サービス	11(2)	243-247	2011
金生由紀子	チック障害	臨床精神医学	40増	377-379	2011
金生由紀子	トゥレット症候群を中心にmotoric強迫スペクトラム障害の捉え方・概念について	Bulletin of D&A	9(1)	6-8	2011
金生由紀子	併存症状－チック、トゥレット、発達性協調運動障害	別冊発達31『ADHDの理解と援助』		69-75	2011
金生由紀子	トゥレット障害と強迫性障害との関連	精神科診断学	4(1)	86-90	2011
Matsuda N, Kono T, Nonaka M, Shishikura K, Konno C, Kuwabara H, Shimada T, Kano Y	Impact of obsessive-compulsive symptoms in Tourette's syndrome on neuropsychological performance	Psychiatry Clin Neurosci	66(3)	195-202	2012
金生由紀子	チック障害	小児科	53(5)	559-565	2012
金生由紀子	前編 未成年者における向精神薬の使用状況	心の健康ニュース	385	2-3	2012
金生由紀子	後編 大人が正しい知識を持つことの必要性	心の健康ニュース	386	2-3	2012
金生由紀子	トゥレット症候群に対する治療について	発達が気になる子の子育て支援情報誌	4	6-10	2012
金生由紀子	発達障害	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	84(12)	939-943	2012
金生由紀子	女性の自閉症スペクトラム障害の診断において、男性の自閉症スペクトラム障害と違うと思うところ	アスペハート	10(3)	38-43	2012
松田なつみ、金生由紀子	トゥレット症候群の支援と治療	精神医学			印刷中
亀岡智美	解離・転換性障害	精神医学	52 (5)	461-466	2010
亀岡智美	子どものうそにどう対応するか	こころの科学	156	80-84	2010
亀岡智美	母性剥奪（Maternal Deprivation）	Japanese Journal of Traumatic Stress	18(1)	80	2010
亀岡智美	心的外傷関連障害	小児科臨床	64(5)	889-896	2011
亀岡智美，元村直靖，瀧野揚三， 岩切昌宏，野坂祐子，加藤寛， 平山照美，兼平高子，住田佑子，安部紫	子どものトラウマへの標準的診療に関する研究. （「子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究」主任研究者：奥山眞紀子）	平成22年度厚生労働科学研究(成育疾患克服等次世代育成基盤研究)報告書		235-237	2011
亀岡智美	虐待されている？[児童虐待]	こころの科学増刊		34-39	2011
加藤寛、岩井圭司、亀岡智美、 小西聖子、廣常秀人、藤森和美	東日本大震災における日本トラウマティック・ストレス学会が果たすべき役割について	Japanese Journal of Traumatic Stress	9(2)	117-119	2011
亀岡智美	子どものトラウマ	日本保健医療行動科学会年報	27	85-89	2012
亀岡智美, 齋藤　梓, 野坂祐子, 岩切昌宏, 瀧野揚三, 田中　究, 元村直靖, 飛鳥井　望	トラウマ焦点化認知行動療法（TF-CBT）～わが国での実施可能性についての検討～	児童青年精神医学とその近接領域			印刷中
亀岡智美	子どものトラウマへの認知行動療法	こころの科学	165	85-89	2012
亀岡智美	被災した子どもたちへのこころのケア～中長期的な視点から～	保育界	458	38-39	2012

亀岡智美、	子どものトラウマとアセスメント	トラウマティック・ストレス	10(2)		印刷中
齊藤卓弥	ADHDの薬物療法の効果と限界	精神科治療学	25(7)	875-88	2010
齊藤卓弥	児童期の大うつ病性障害の非定型性	精神医学	52(5)	433-438	2010
川島義高，伊藤敬雄，成重竜一郎，大高靖史，齊藤卓弥，大久保善朗	思春期の自殺　救命救急センターでの取り組み	臨床精神医学	39(11)	1397-1404	2010
齊藤卓弥	児童青年期双極性障害に対する抗うつ薬の使用とその影響	臨床精神薬理	13(5)	907-912	2010
齊藤卓弥	成人期の発達障害と心身医療 気分障害と発達障害、および米国における成人発達障害の取り組み	心身医学	50(4)	303-311	2010
齊藤卓弥	子どもの気分障害	小児科臨床(0021-518X)	64(5)	845-852	2011
宇佐美政英、齊藤万比古，傳田健三，斉藤卓弥，岡田俊，松本英夫，山田佐登留	児童・青年期におけるSSRI/SNRIの使用実態と安全性に関する全国調査	児童青年精神医学とその近接領域	52(1)	21-35	2011
齊藤卓弥	気分障害に対する薬の知識	教育と医学	60(10)	78-885	2012
成重竜一郎，川島義高，齊藤卓弥，大久保善朗	児童・青年期の自殺未遂者の原因・動機に関する検討	児童青年精神医学とその近接領域	53(1)	46-53	2012
成重竜一郎，川島義高，大高靖史，齊藤卓弥，大久保善朗	東日本大震災後における自殺未遂者の特徴	臨床精神医学	41(9)	1255-1261	2012
Kawashima Y, Ito T, Narishige R, Saito T, Okubo Y	The Characteristics of Serious Suicide Attempters in Japanese Adolescents - Comparison Study between Adolescents and Adults-	BMC Psychiatry	12: 191	doi:10.1186/1471-244X-12-191	2012
齊藤卓弥	米国多発テロ事件に外傷後ストレス障害を発症した児童症例	児童青年精神医学とその近接領域	53(2)	118-127	2012
藤田純一、西田敦志、高橋雄一、新井卓、伊藤弘人、岡崎祐士	児童思春期精神科治療施設の初回エピソード精神病に対するサービス調査	精神医学	53	891-897	2011
新井卓	統合失調症を中心とする精神病性障害の診断と治療－前駆状態と初回エピソード精神病を中心に－	小児科臨床	64	864-869	2011
藤田純一、新井卓、高橋雄一、河野美帆、黒江美穂子、豊原公司、庄紀子、南達哉、齊藤万比古	児童青年精神科領域の精神病性障害に対する診断・支援に関する意識調査～児童青年期の統合失調症を中心とする精神病性障害の診断・治療の標準化にむけて～、	児童青年精神医学とその近接領域			印刷中
新井　卓、藤田純一	現在の児童精神科臨床における標準的診療指針を目指して ～子どもの統合失調症を中心とする精神病性障害～	児童青年精神医学とその近接領域			印刷中
渡部京太	ADHDのDBD（破壊的行動障害）マーチとは何ですか？	教育と医学	58(9)	798-803	2010
渡部京太	境界性パーソナリティ障害をマネジメントする　学校の中でのマネジメント	こころの科学	154	36-41	2010
渡部京太	ADHDの疫学と長期予後	精神科治療学	25(6)	727-734	2010
渡部京太	発達障害／発達特性から見えてくる臨床の工夫　併存する精神症状や精神科的な状態像に応じた治療・支援反応性の不安や抑うつ	精神科臨床サービス	11	234-237	2011
渡部京太	精神疾患の診断と治療Update　5．不安障害―不登校・ひきこもりとの関連を中心に―	小児科診療	64(5)	871-879	2011.5
渡部京太	集団精神療法を通じた若手精神科医への力動的精神療法の教育	青年期精神療法	8(1)	36-42	2011
渡部京太	広汎性発達障害と素行障害	児童青年精神医学とその近接領域	52(2)	114-127	2011
渡部京太、他	児童・思春期の集団療法を考える･国府台病院児童精神科の取り組み	集団精神療法	27(2)	287-293	2011
渡部京太	不登校にみる最近の子どもたち	精神療法	38(2)	172-178	2012
桝屋二郎	発達障害を抱えた非行少年への少年院における矯正の実際～性加害矯正などを中心に～	児童青年精神医学とその近接領域	52	522-526	2011
桝屋二郎	最近の反社会的な青少年たち	精神療法	38(2)	187-194	2012
Sato W. Uono S. Okada T. Toichi M	Impairment of unconscious, but not conscious, gaze-triggered attention orienting in Asperger's disorder	Research in Autism Spectrum Disorders	4	782-786	2010
岡田俊	ADHDの病態生理学	PharmaMedica	28(11)	17-19	2010
岡田俊	身体治療場面における広汎性発達障害のある患者への対応	心身医学	50(9)	863-868	2010
岡田俊	ADHDの神経生物学：最新の知見	精神科治療学	25(6)	735-740	2010

岡田俊	成人期AD/HDの診断と治療	児童青年精神医学とその近接領域	51(2)	77-85	2010
岡田俊	子どもの精神疾患の臨床像をどうとらえ得るか？－児童精神医学と成人精神医学の双方向の視点	精神医学	52(5)	431-432	2010
木村記子，岡田俊	児童期における摂食障害	精神医学	52(5)	467-476	2010
岡田俊	ADHD治療ガイドラインにおけるatomoxetineの位置づけ	脳21	13(2)	80-88	2010
岡田俊	広汎性発達障害に対する薬物療法	発達障害医学の進歩	22	21-28	2010
岡田俊	児童青年期双極性障害に併存する注意欠陥/多動性障害に対する中枢神経刺激薬の使用	臨床精神薬理	13	927-932	2010
岡田俊	ADHDにおけるドパミン神経活動の異常と神経精神薬理学	現代のエスプリ	513	117-123	2010
久島周、岡田俊、尾崎紀夫	発達期精神障害：発達障害を中心に	Brain and Nerve	64(2)	139-147	2012
岡田俊	小児期精神疾患における強迫性・衝動性と薬物療法 広汎性発達障害との関連を中心に	臨床精神薬理	14(4)	599-605	2011
岡田俊	小児期精神疾患と強迫スペクトラム	精神神経学雑誌	113(10)	992-998	2011
岡田俊	児童・思春期のうつ病と行動上の問題	分子精神医学	12(3)	233-235	2012
岡田俊	ADHDの神経心理学とテーラーメイド治療	臨床精神医学	15(6)	911-915	2012
岡田俊	発達障害に対する薬物療法の意義と留意点	PharmaMedica	30(4)	41-43	2012
小平雅基	児童思春期精神医療において「家族療法的な視点」を持つ意義について	精神療法	37(6)	684-687	2011
黒木俊秀、瀬口康昌、宮下聡、小平雅基ほか	小児・思春期うつ病の治療ガイドライン-英国と北米における現況-	臨床精神医学	40	1203-1212	2011